

2. 境川及び周辺市街地の現状

2.1 境川の概要

境川は、一級河川利根川水系に属し、旧江戸川から東京湾に至る延長約 4.8km、流域面積約 6.8 km²の派川で、東西水門間は水位低下区間、東水門から日の出橋までは感潮区間である。

水位低下区間は修景整備の時期の違いでA・B・Cの3ゾーンに、感潮区間は海面埋立事業が行われた時期の違いでD1・D2ゾーンに分けることができ、ゾーンごとに河川の形状が大きく異なっている。さらに、D1ゾーンを公共施設などが集中する市役所周辺エリアのD1-1ゾーンと、住宅街である中町エリアのD1-2ゾーンに分けることとした。

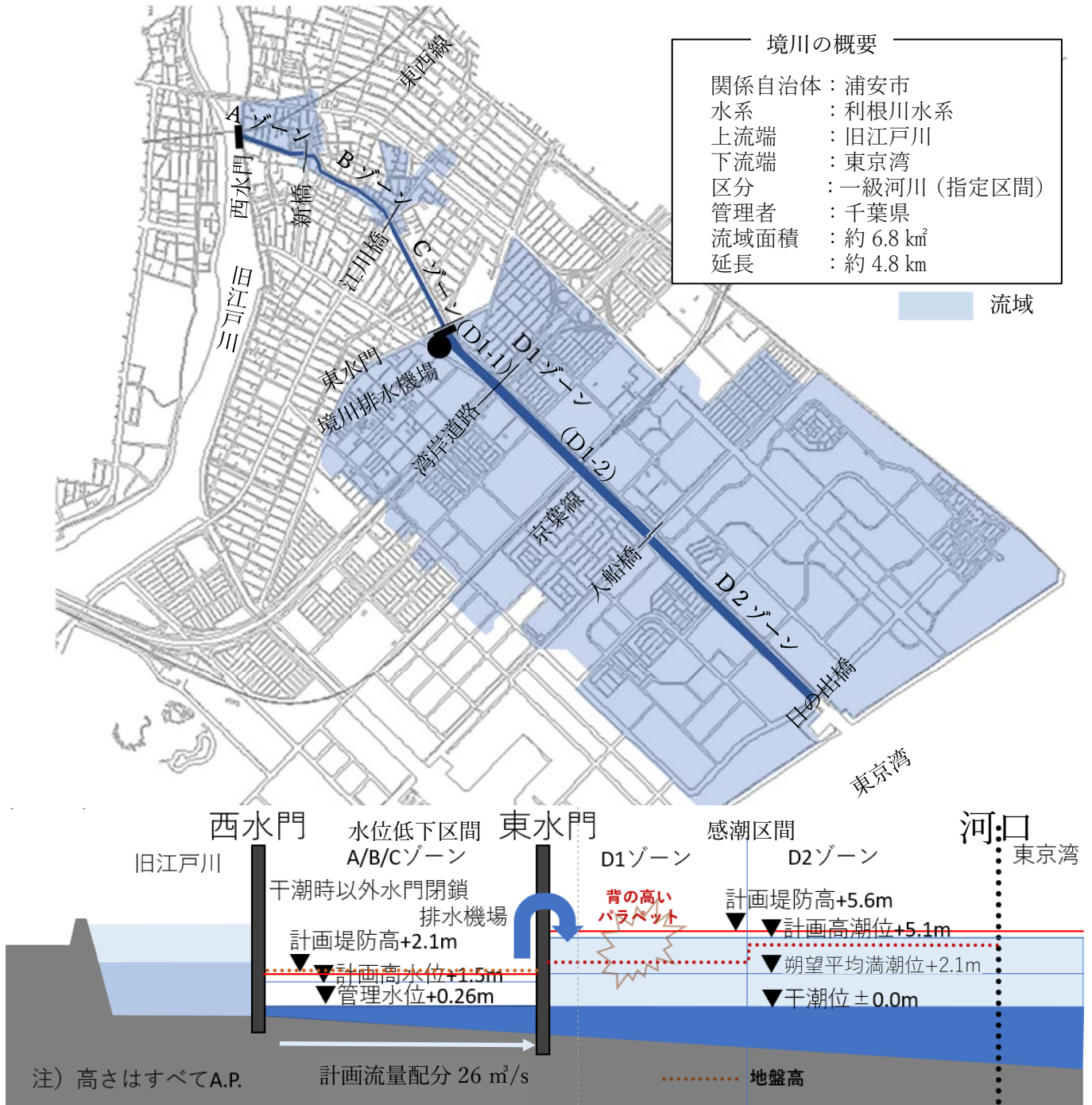


図 2.1 境川概要図

出典：利根川水系江戸川左岸圏域河川整備計画 平成 18 年 12 月 千葉県

(1) ゾーンの河川横断面構成

Aゾーン(川幅約12m、石積み護岸、一部テラス式護岸)

Bゾーン(川幅約7~8m、矢板護岸、一部テラス式護岸)

Cゾーン(川幅約20~30m、テラス式修景護岸)

D1ゾーン(川幅約50m程度、ブロック積み+パラペット護岸)

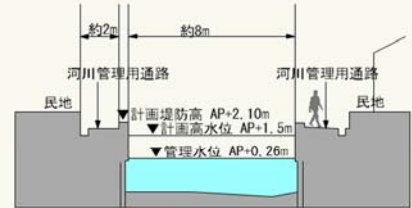
D2ゾーン(川幅約50m程度、ブロック積み+パラペット護岸)

※橋梁部など重力式護岸も一部あり

Aゾーン現況横断面図(例)



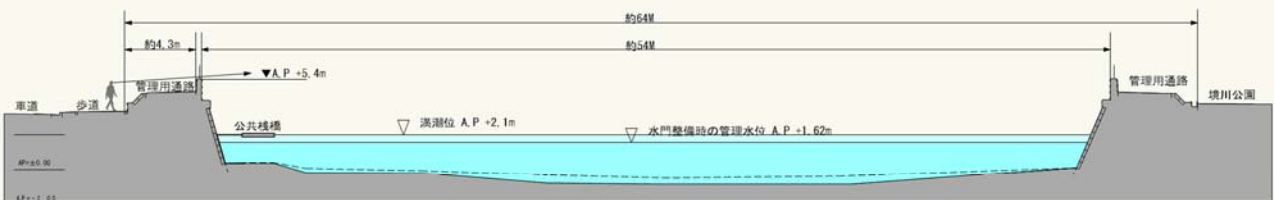
Bゾーン現況横断面図(例)



Cゾーン現況横断面図(例)



D1ゾーン現況横断面図(例)



D2ゾーン現況横断面図(例)



図 2.2 各ゾーン横断面図

(2) 橋梁の現況

境川には、西水門から河口まで計21橋の橋梁が設置されている。



境川歩道橋



記念橋



江川橋



あげぼの橋



首都高速湾岸線



京葉線



高洲橋



西境橋



新中橋



神明橋



あげぼの歩道橋



境川中央歩道橋



わかしお歩道橋



明海橋



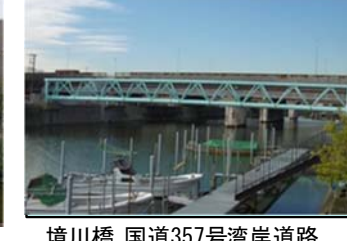
新橋



境橋



しおかぜ歩道橋



境川橋 国道357号湾岸道路



今川橋



入船橋



日の出橋

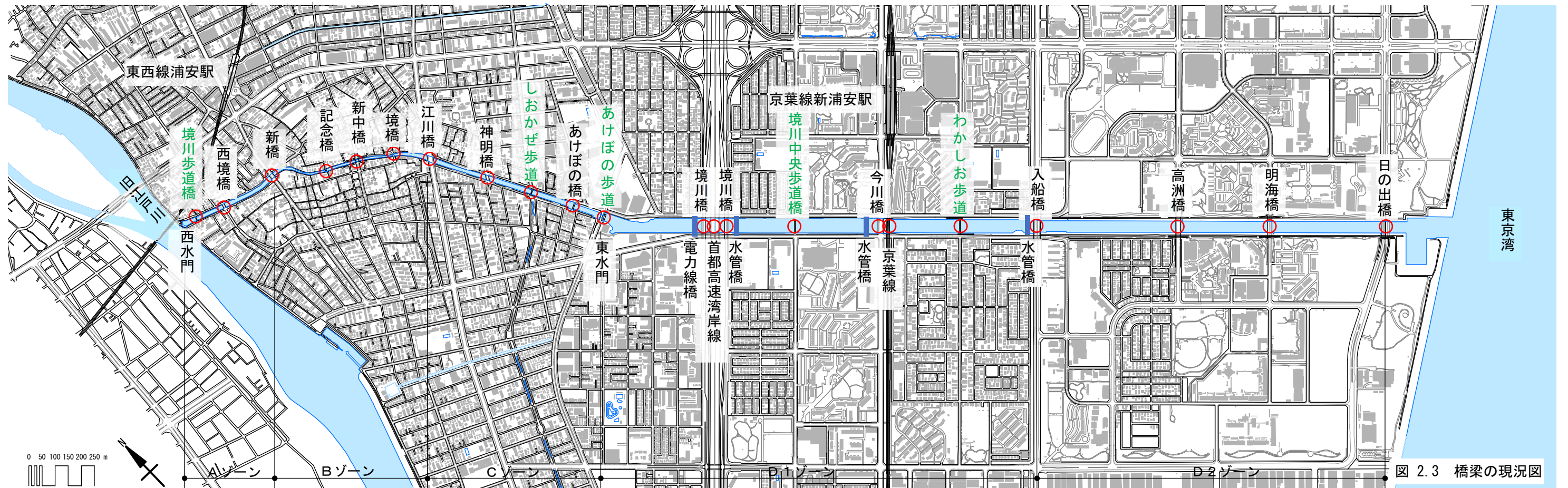


図 2.3 橋梁の現況図

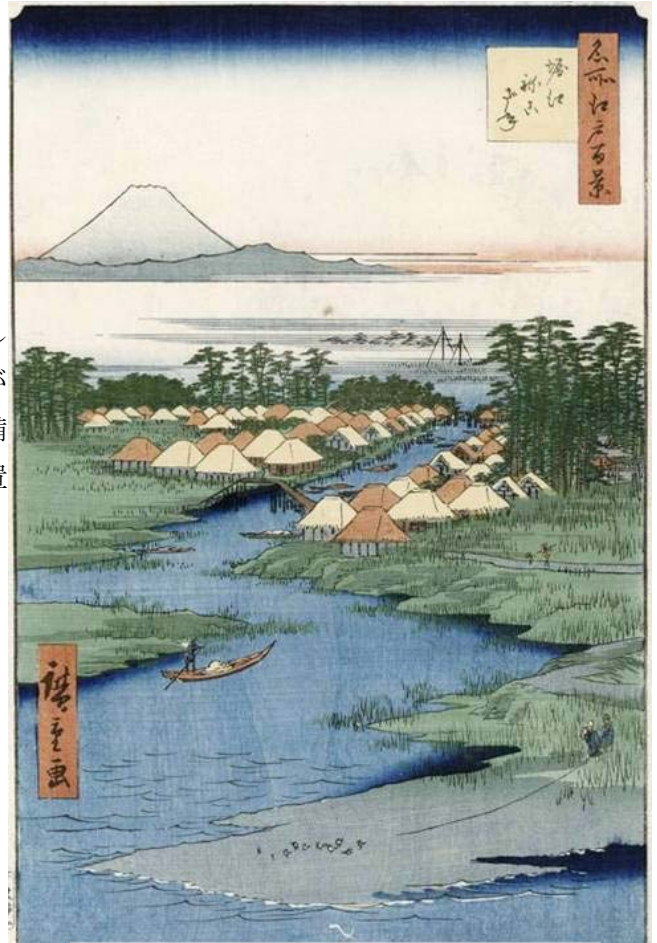
2.2 境川の歴史

江戸時代、現在の旧江戸川から東京湾に出る派川であった境川は右岸に猫実村、左岸に堀江村を擁する漁師町で、江戸幕府に魚介類を献上する御菜浦として栄えた。

その後昭和 30 年代に至るまで、浅瀬の海ではノリやアサリ・ハマグリ の養殖も行われ、浅海漁業地として、江戸時代からの漁村の街並みを継承した市街地が残されていた。また、境川は木製や石積の護岸が整備され多くの舟が係留されて、人々の生活の中心に位置していた。



境橋付近の板張りの曲線部



名所江戸百景（堀江 猫実 安藤広重）



昭和 30 年頃猫実 5 丁目の石積護岸

写真 2.1 昔の境川風景



昭和 47 年西水門付近、パラペットが見える

写真出典：浦安市郷土博物館

昭和 30 年代に入ると、工場排水や生活排水で漁場が汚染され、漁獲量は年々減少の一途をたどった。工場の地下水汲み上げで地盤沈下が起こり、対策としてパラペットによる護岸の嵩上げが行われた。昭和 40 年代になると、漁業権が放棄され、東西線開通、土地改良事業、海面埋立が始まり、浦安市は東京のベッドタウンへと変貌してゆく。海面埋立事業に伴い境川も約 3 倍の長さに延伸し、現在の姿になったが、それに反比例するように沿川の賑わいは少なくなっていた。

・海面埋立の変遷

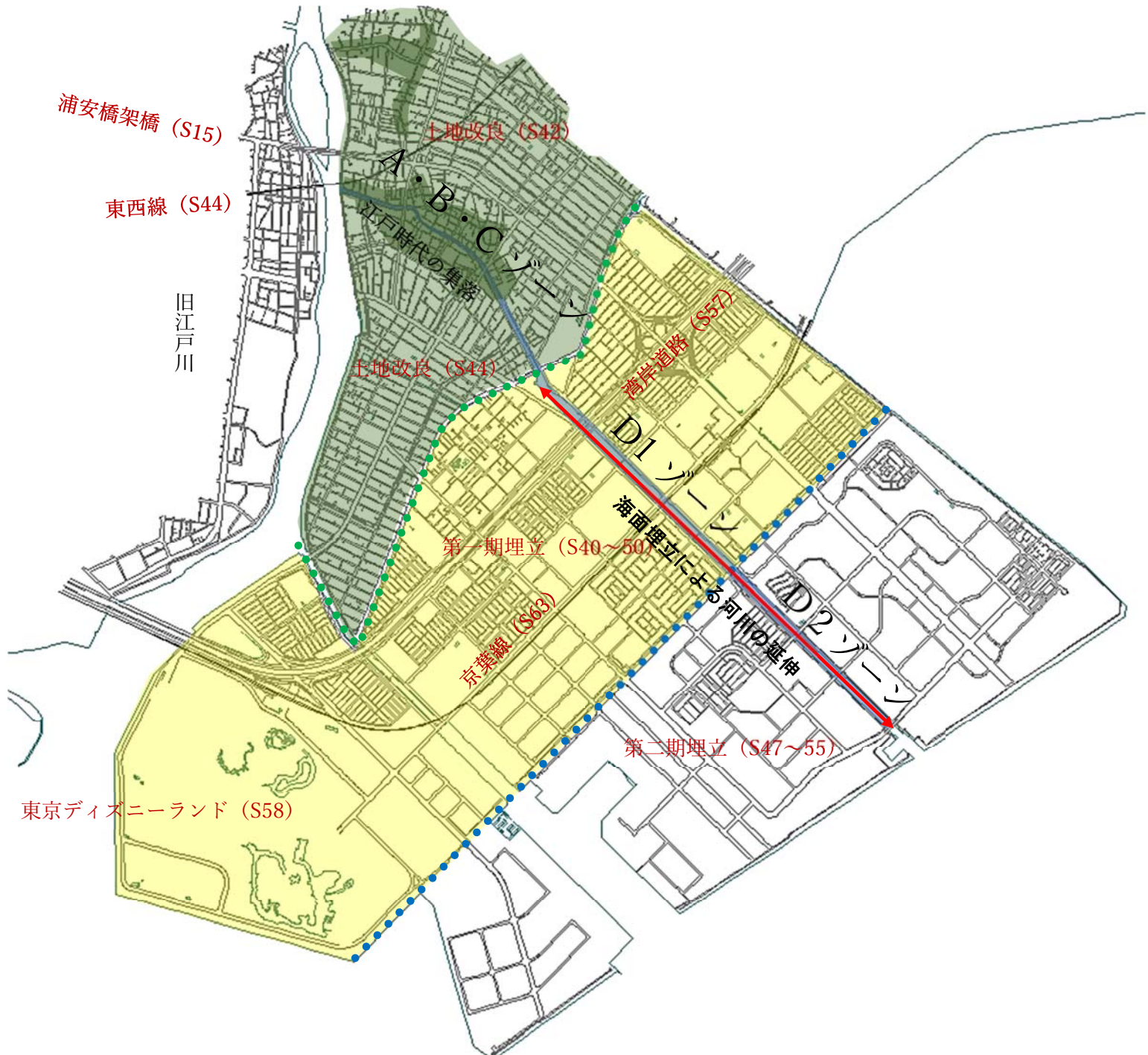
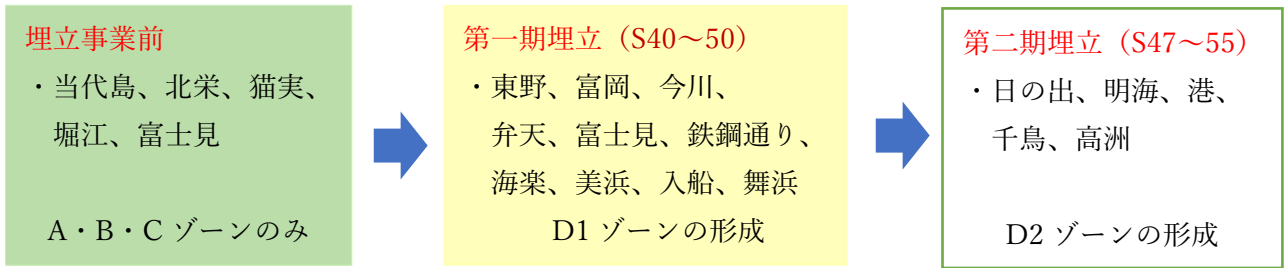


図 2.4 海面埋立の変遷

2.3 境川の整備状況

- Aゾーン(境川西水門から新橋間、昭和48年度、昭和61~平成元年)
 昭和48年度迄：東京湾高潮事業により境川東西水門境川排水機場（排水能力5 m³/s）が完成。
 昭和61~平成元年：小段整備実施（修景整備は一部分に止まる）。
- ABCゾーン（西水門から東水門、平成元年）
 「舟の浮かぶ水辺コミュニティ空間の創出」を整備テーマに、AゾーンからCゾーンについて境川修景検討部会により修景を検討。
- Bゾーン（新橋~江川橋、平成17年度~）
 令和2年3月に新橋周辺の護岸形状を緩傾斜化のため、千葉県と工事変更基本協定を締結。4つの工区に分割し護岸やテラス等の整備と河床掘削（一時貯留容量3.2万m³確保）の整備中。
- Cゾーン(江川橋から境川東水門間、平成9年度~27年度)
 千葉県と工事基本協定の締結。千葉県が護岸改修し、浦安市が修景部分の費用を負担し整備完了。
- D1ゾーン（東水門から入船橋、昭和40年度~昭和50年度）
 埋立事業にともない護岸を整備。
- D2ゾーン（入船橋から日の出橋）
 昭和47年度から昭和55年度に埋立事業にともない護岸を整備。
- D1/D2ゾーン
 境川下流部整備構想検討会の検討。（D1ゾーンの護岸根継と小段の整備、D2ゾーンの最下流部への高潮対策用水門設置等が検討された）平成23年に一部区間で河川災害復旧工事を実施。

表 2.1 各ゾーンの検討・整備経緯

	S35 1960	S45 1970	S55 1980	H02 1990	H12 2000	H22 2010	R02 2020	R12 2030
西水門		■						
Aゾーン	■ 堤防嵩上げ		■ 小段整備	■ H2境川修景検討部会			■ R1境川修景整備検討会	
Bゾーン	■ 堤防嵩上げ		■ H1境川水辺空間整備計画検討委員会			■ 護岸補強及び修景整備	■ R1境川修景整備検討会	(整備中)
Cゾーン	■ 堤防嵩上げ				■ 護岸補強及び修景整備			
東水門 排水機場		■						
D1ゾーン	■ 護岸整備(海面埋立)				■ H6境川下流部整備構想検討会	■ 護岸根継・小段整備を検討	■ 河川災害復旧工事	
D2ゾーン		■ 護岸整備(海面埋立)					■ 河川災害復旧工事	
河口水門 排水機場					■ 高潮対策用水門設置を検討			

2.4 流域の雨水排水 — 増大する内水氾濫危険性と河口水門の必要性 —

浦安市では計画降雨量 50mm/h 想定での雨水排水施設の整備が完了していた。

しかし、その後の地盤沈下で排水能力が低下し、温暖化による集中豪雨の激甚化・多発化が加わり、内水氾濫の危険性が増大している。

- ・ A・B・Cゾーンでは、沿川市街地の多くは地表標高が満潮時の平均海水面よりも低い海拔 0m 地帯のため、流域の雨水は排水機場を介して境川に排水している。境川は東西水門で閉鎖して水位を低く保ち、降雨時には一時貯留し、境川排水機場を介して下流に排水している。排水機場は 50mm/h 対応で整備されているため、60mm/h 対応に向けポンプの能力アップが必要となっている。
- ・ D1、D2 ゾーンでは、流域の雨水は、管渠を通じて樋門から境川に排水される。沿川市街地は、海面埋立事業で整備された後、地盤沈下を起こし、その後東日本大震災でさらに沈下が進んだため、管渠に逆勾配が生じ、樋門が満潮時一部水没する箇所が生じて、排水能力が低下している。対応策として、平成 18 年の排水基本計画（案）では、管渠の布設替え等に加え、外水門・排水機場の設置について千葉県との協議を行うとしている。その後、東日本大震災時の地盤沈下等を踏まえ、平成 31 年に検討した「浦安市雨水管理総合計画（案）」では、浸水ボリュームを貯留管及び公園・小中学校のグラウンド等に全て貯めることで事業費を圧縮することを提案している。

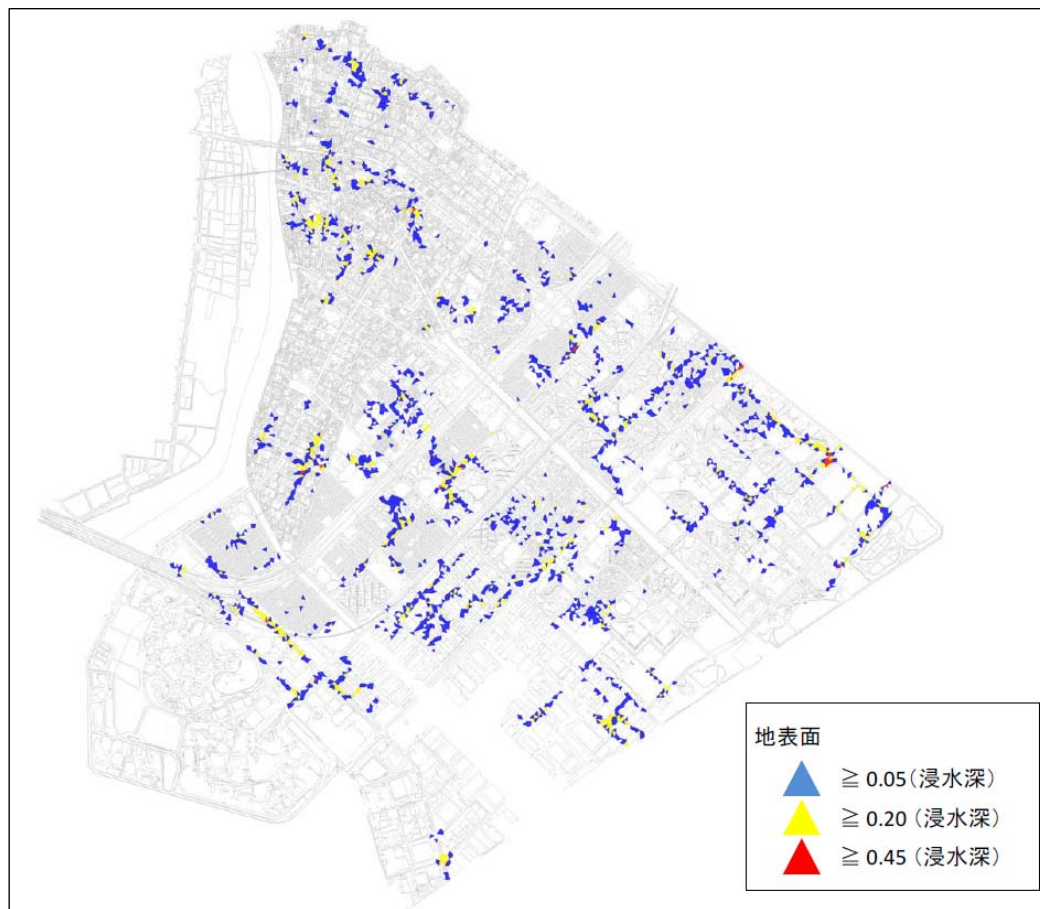


図 2.5 計画降雨 60mm/h における浸水想定図

出典：浦安市雨水管理総合計画（案）（平成 31 年 3 月 浦安市）

2.5 高潮 — 高潮対策としての河口水門の必要性 —

本市の高潮対策は、昭和 34 年 9 月の伊勢湾台風と同規模の台風が東京湾に最も被害をもたらすコースを進んだ場合に発生する高潮に対応するため、計画高潮位 A.P+5.1m、計画堤防高 A.P+ 5.6m で整備は完了している。高潮の侵入が起こり得る東水門から河口までをみると、整備後に地盤沈下があったものの計画高潮位以上は確保されている。

平成 27 年 5 月水防法が一部改正を受け、平成 30 年に千葉県では地域防災計画などソフトを含む高潮対策の基礎とするために“想定し得る最大規模の高潮による浸水想定区域図”を発表した。想定する台風は、中心気圧は室戸台風級 (910hPa)、最大旋衝風速半径 (75km) と移動速度 (73km/h) は伊勢湾台風級を想定し、本市の最高高潮水位は A.P+6.2m で、海岸は A.P+7.1m の堤防で守られているが、境川の計画高潮位 A.P+5.1m を越えており、浸水面積は 16.94 km² (全市域面積の約 98%) にのぼるという結果になっている。

この高潮想定は、必ずしもハード面での対応を求めるものではないが、市域のほとんどが水没する事態への対応を考えると、弱点となる境川の高潮対策として河口水門の整備が必要である。

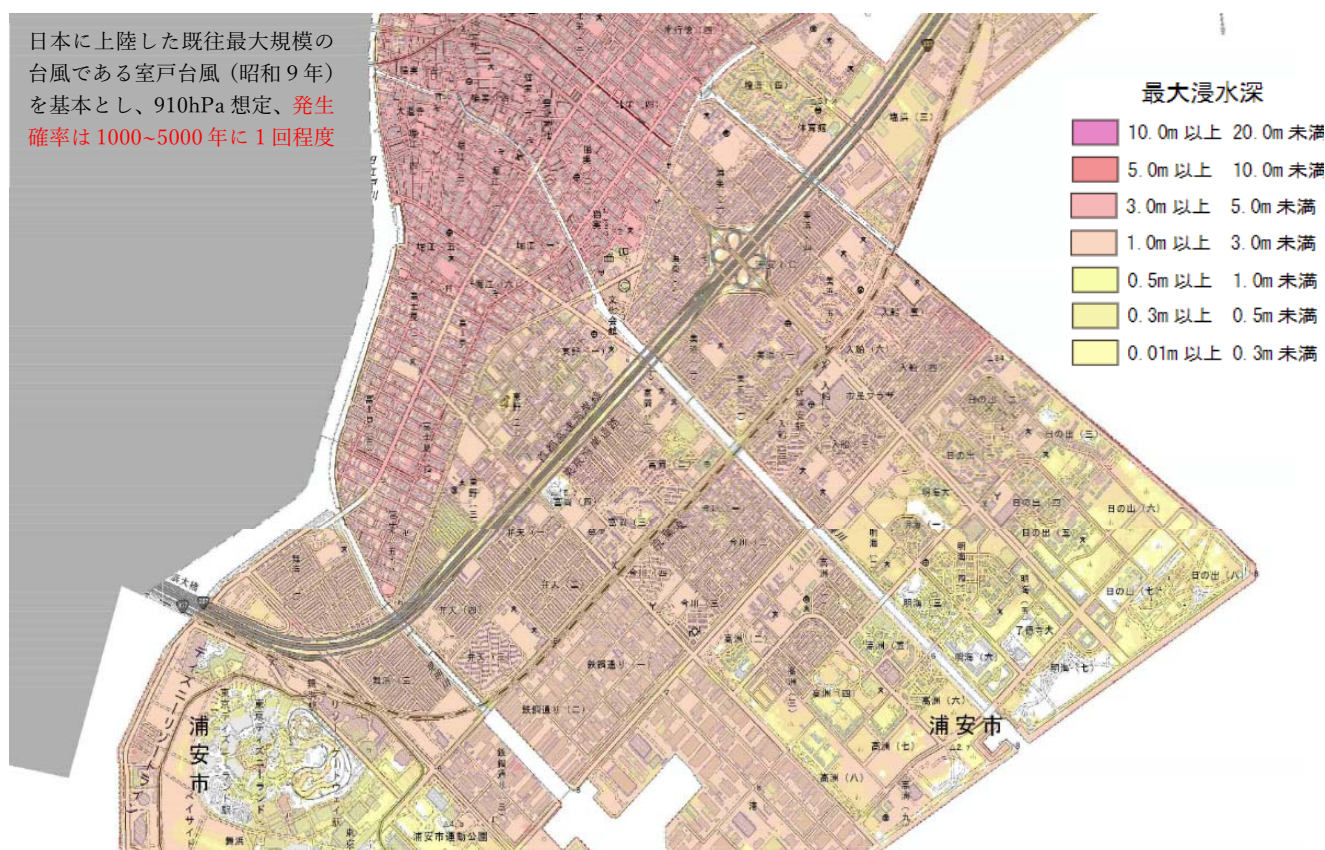


図 2.6 高潮浸水想定区域

出典：高潮浸水想定区域 (平成 30 年 11 月 千葉県)

2.6 水質 (BOD) — 水質改善が必要な ABC ゾーン、水質の優れた D ゾーン —

境川の環境基準は、C類型 (BOD5mg/l 以下) である。

・境川 A 地点 (D ゾーン)

感潮区間である A 地点の BOD 年平均値は平成 26・27 年を除き環境基準を大きく下回り A 類型 (未調査の大腸菌群類数が基準以下なら水浴が可能な水質) に相当している。

・境川 B 地点 (ABC ゾーン)

水門で区切られた水位低下区間に当たる B 地点は A 地点より BOD の値が高く 15 年間で基準をオーバーしている年度が 6 年ある。沿川住民からは、臭いがするとの苦情があり、水質改善が必要である。



図 2.7 水質調査位置図

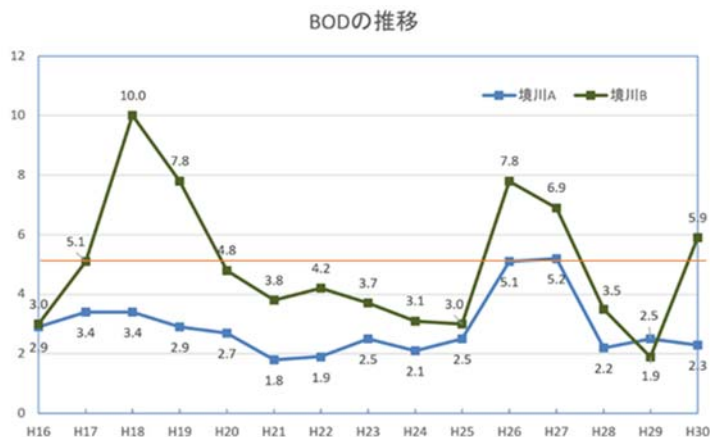


図 2.8 BOD の推移

表 2.2 水質調査結果

<河川等水質調査結果 (平成 30 年度調査) > (単位: mg/L [pH 以外])

河川	項目	5月	8月	11月	2月	年平均値
境川 A 地点	pH	8.3	7.6	7.8	7.9	7.9
	SS	11.2	7.8	2.7	1.3	5.8
	BOD	5.5	1.8	2.3	2.2	2.3 (75%水質値) 3.0 (年平均値)
	DO	7.9	6.3	6.3	9.3	7.5
	全窒素	1.7	2.4	3.0	3.0	2.5
	全りん	0.26	0.29	0.15	0.10	0.20
境川 B 地点	pH	8.5	7.9	7.4	7.3	7.8
	SS	19.1	15.8	1.7	4.3	10.2
	BOD	7.4	5.9	1.4	4.9	5.9 (75%水質値) 4.9 (年平均値)
	DO	10.6	14.6	9.0	9.0	10.8
	全窒素	1.7	2.5	3.5	4.8	3.1
	全りん	0.39	0.41	0.13	0.25	0.30

出典: 浦安市公式サイト 主要河川水質測定結果 (令和 2 年 2 月現在)

2.7 生物 — 多様な生物の水辺の営みがある —

境川は、江戸川下流部に接続する他の小河川と比較して水質も良く、広い水面を持ち、下流部は東京湾に接する感潮河川となっているため、魚介類やそれを求めて飛来する鳥類など多様な生物の営みがみられる。

- ・ 魚介類

ハゼ、イナ、ボラ、フッコ、セイゴ、アジ、カレイ、イシモチ、サヨリ、アナゴ、コチ、カニ、アサリ、ハマグリ、アオヤギなど多くの種類の魚介類を見ることができる。

河口部を中心に東水門までは東京湾に直結する感潮河川のため、特に多くの魚介が生息し、釣りや貝掘りを楽しむ人々が多くみられる。また、河口部付近には貝殻の滞積による浅瀬があり、魚類の産卵場および稚魚、小型生物の生育場所となっている。

- ・ 鳥類

多くの場所で、サギ、カモ、カワウ等がみられる。

- ・ 植物

絶滅危惧種に指定されている水生植物であるリュウノヒゲモの生息地がある。

2.8 沿川市街地の状況 — 区間ごとの特色ある沿川市街地 —

境川沿川は市街化しているがゾーンごとに特徴的な土地利用がみられる。

- ・ A B Cゾーン：沿川は住宅主体の住商併存地区で、浦安駅周辺の商業系土地利用が道路沿いに境川の近くまで伸びている。公園緑地は少ない。
(D1ゾーンは湾岸道路を境に市街地の状況が大きく異なるのでD1-1、D1-2ゾーンに区分する)
- ・ D1-1ゾーン：市役所等市の中心となる公共公益施設や商業施設が集積している。
沿川に小規模な公園緑地がある。
- ・ D1-2ゾーン：住宅用地と文教・厚生用地が中心で、業務用地がある。沿川には公園がある。
- ・ D2ゾーン：住宅用地が大半を占める。境川沿いは緑地帯となっている。

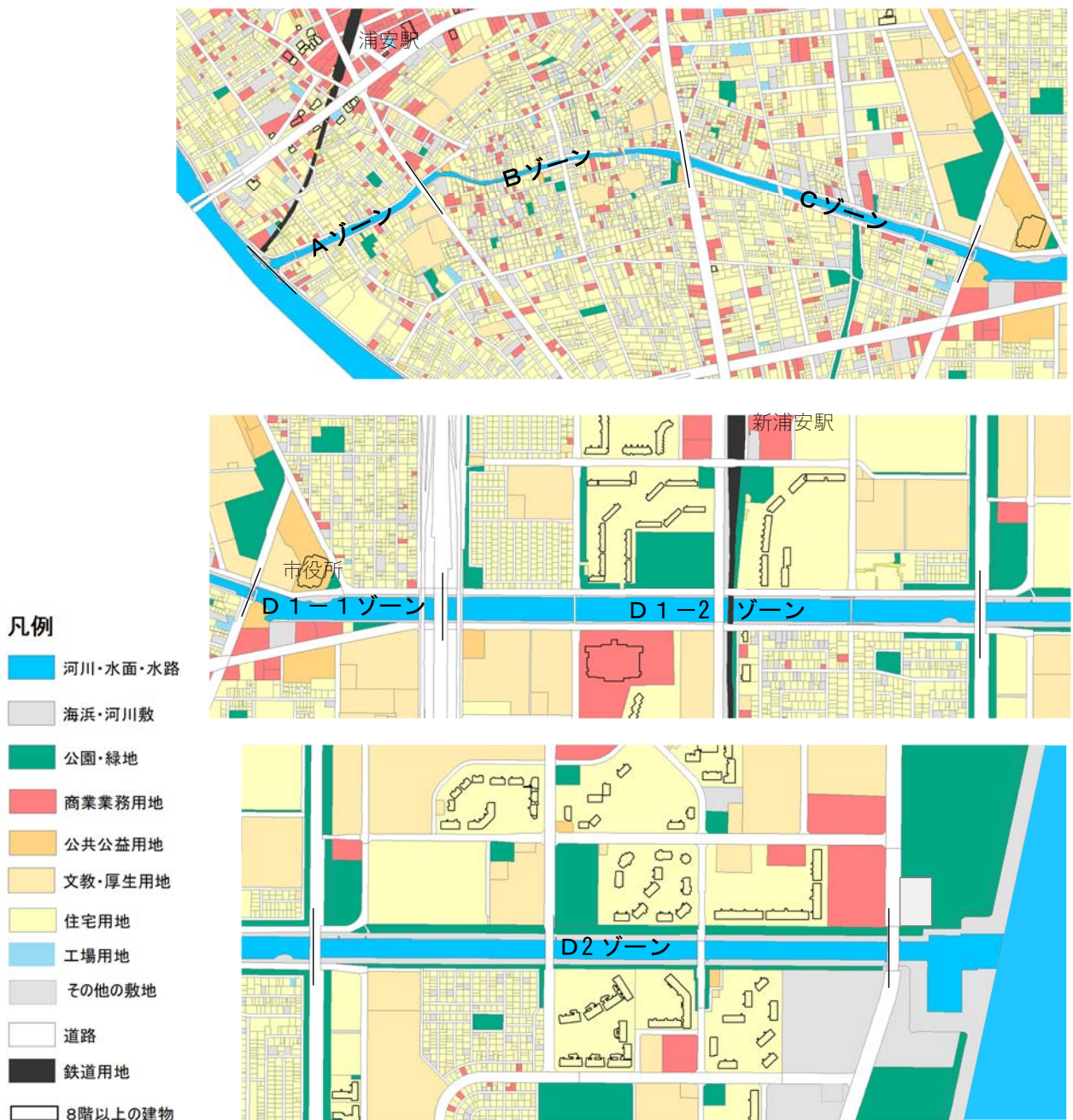


図 2.9 現況土地利用

出典：平成 28 年度浦安市都市計画基礎調査

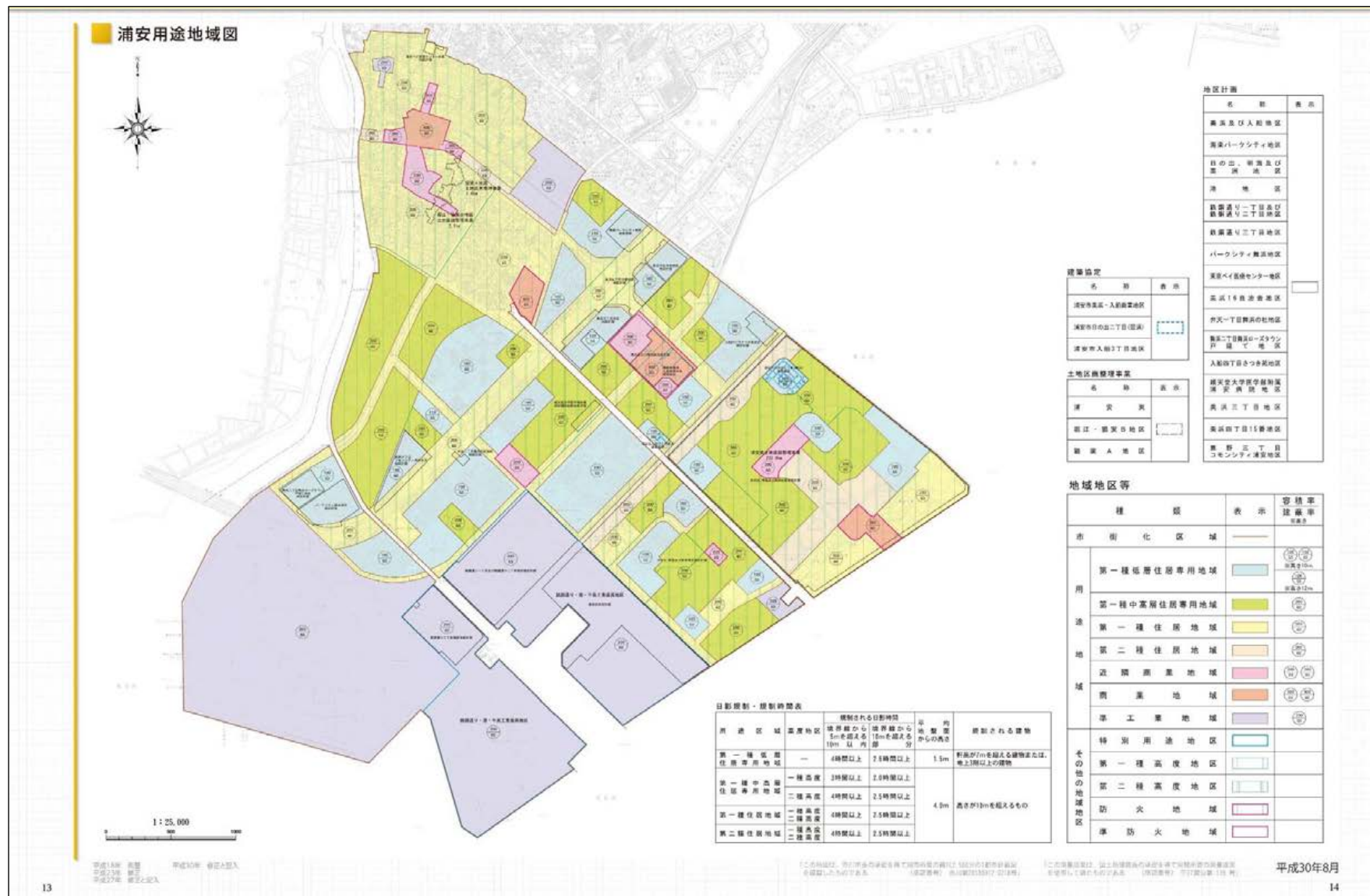


図 2.10 用途地域

出典：浦安の都市計画 平成 30 年 8 月



図 2.11 都市構成の基本的な考え方

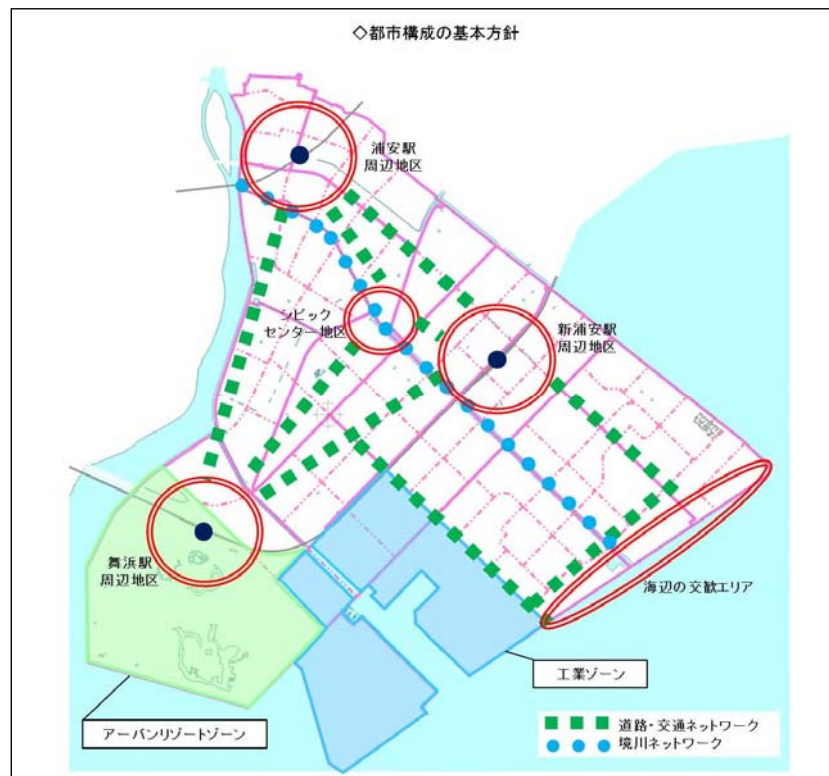


図 2.12 都市構成の基本方針

出典：浦安市総合計画(令和元年)基本構想

2.9 住民意向

令和元年5月の春まつり2019（2日間）に行われたアンケート調査の結果を以下に示す。なお、アンケートに関する詳細な結果は資料編6.5 市民アンケートにて掲載している。

・今後境川でしたいこと上位5項目

- カフェテラスやバーでの飲食
- 散策・ランニング
- グルメイベントでの飲食
- 花見
- 乗船

・施設整備の要望上位5項目

- トイレ
- ベンチ・東屋
- カフェテラスやバーなど飲食店
- 川に降りる階段・道
- 歩道や緑地帯と一体の散策路

・視界を遮る擁壁の扱い方

お金をかけてでも、安全を確保し、ぜひ撤去した方がよいが第1位。

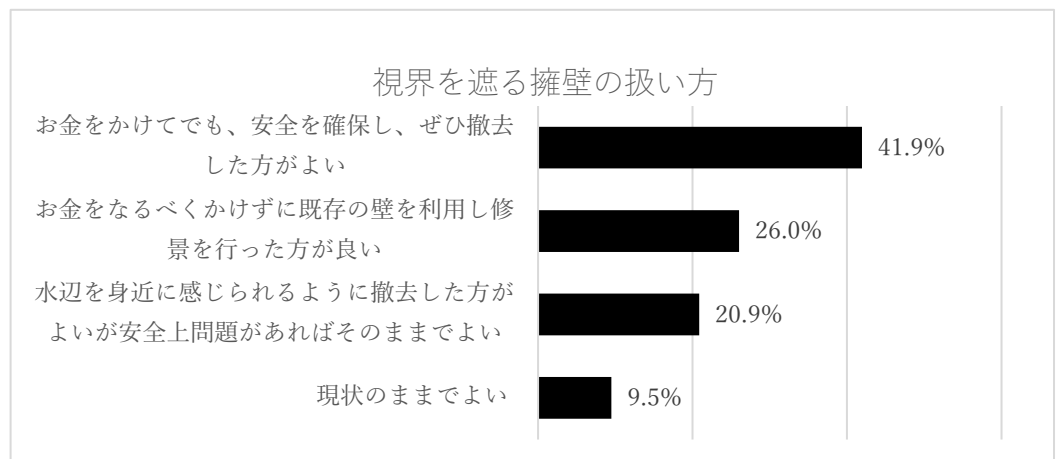
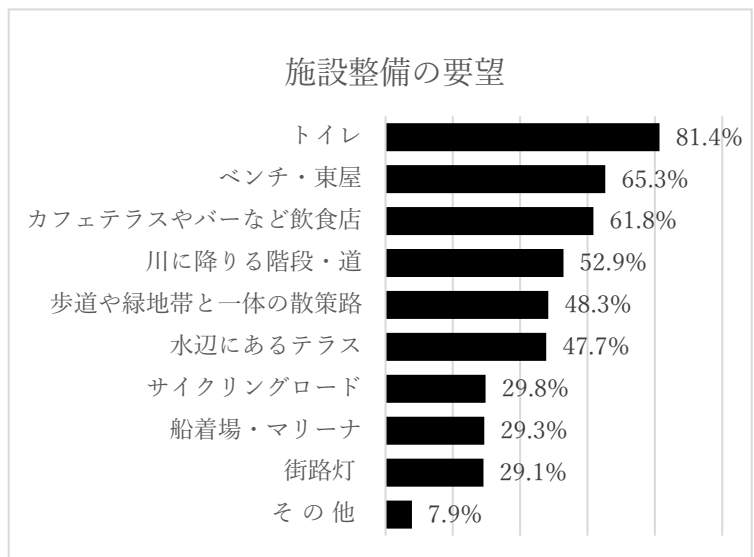
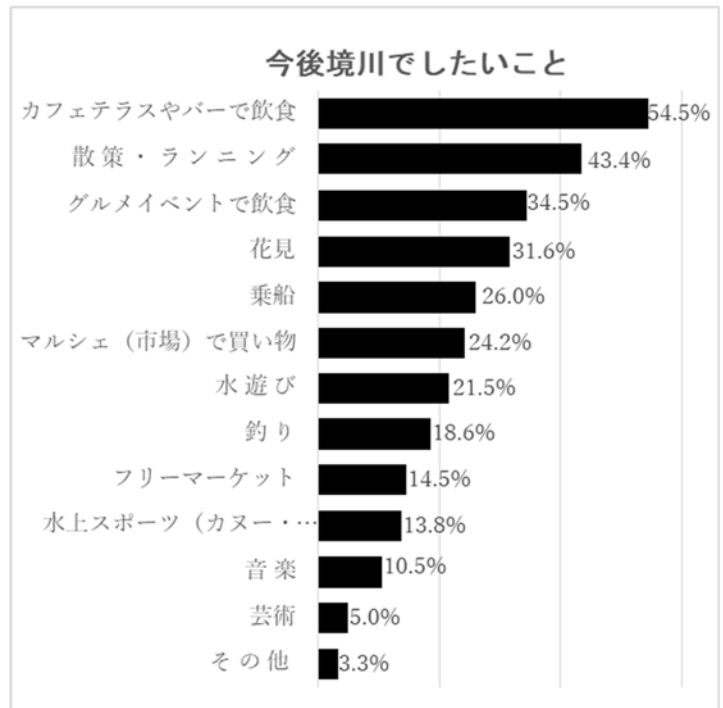


図 2.13 アンケート結果抜粋

出典：境川修景整備に関するアンケート調査（令和元年5月、春まつり2019会場でのヒアリング調査、回答数484）

2.10 修景整備の課題

(1) 治水安全性の確立

境川の流域は地盤沈下で雨水排水施設的能力低下を起こしており、集中豪雨の頻発化もあって内水氾濫の危険性が増大している。また高潮対策として護岸嵩上げは完了しているものの、想定される最大限の高潮が発生すると全市域面積の98%が水没する予測があり、弱点である河川堤防に代わり河口水門の整備が大きな課題である。

(2) 水質の向上

市民が水と親しめる環境づくりの前提となるキレイな水質を実現するために、水門の閉鎖による水質の悪化がみられるA・B・Cゾーンについては水質の向上が必要である。

(3) 緑のみちの形成

境川は、全市的を繋ぐ緑の軸に位置付けられている。河口部に近いD2ゾーンは遊歩道としても利用されている河川管理用通路に接する緑地帯や隣接する公園が豊かな緑の軸を形成しており、D1ゾーンでは河川管理用通路に接する歩道部の街路樹が緑の軸を繋いでいる。一方、A・B・Cゾーンでは緑の連続が途絶えている箇所も多く、緑の軸をどのように繋いでいくかが課題である。

(4) 水のみちの形成

修景整備が進んでいるB・Cゾーンを除くと、水辺が見渡せない、水辺にアクセスできる場所が無いなどの問題を抱える場所が多くある。見て美しいことに止まらず、触れて楽しめる水辺とするために、水辺へのアクセス性の向上と、水辺の散策、釣り、カヌー、貝掘り、舟運等の水面を利用した様々なアクティビティの促進が課題である。

(5) 歴史的市街地との連携

境川A・B・Cゾーンには、川を中心に発展してきた歴史的街並みが残されている。境川と歴史的市街地を結ぶ散策ルートの設定や、漁村生活を再現するフィールドミュージアムの活動等、歴史的市街地との添景を高めることが課題である。

(6) 水辺の賑わいの再生

境川の修景整備は、その結果として水辺に多くの人々が集い、水辺を楽しむ状況を生み出すことに繋げる必要がある。A・B・Cゾーンでは、かつての漁村の賑わいを再現し、市民の歴史学習や観光振興につなげることが課題である。

また、市の中心的公共公益施設が集まるD1-1ゾーンは、市民の交流の場としての水辺の賑わいの創出が求められる。市民アンケートの結果、今後境川でしたいこと第1位に挙げられている“カフェテラスやバーでの飲食”との要望に応えることも課題である。